

ISSN 2187-6177

日本語音声コミュニケーション 2

**Japanese Speech Communication 2**

2014. 3

日本語音声コミュニケーション教育研究会

Japanese Speech Communication

製作 ひつじ書房

## 目次

発刊のことば

日本語

論文

第二言語としての日本語にみるイントネーションの習得  
—スウェーデン人学習者のデータから—

永野マドセン 泰子 .....1

論文

日本語教師によるビデオ教材の作成と共有のすすめ  
—企画・制作・公開・コミュニケーション—

金田純平 .....28

著者紹介

雑誌の案内（投稿の方法、連絡先）

編集後記

## 発刊のことば

日本語の音声コミュニケーションとその教育を専門に考える研究会「日本語音声コミュニケーション教育研究会」を、私たちが日本語教育学会のテーマ研究会として作ったのが2006年の4月です。ようやく7年目にして、会誌の発刊という悲願を達成できました。ご協力を賜りました方々に心よりお礼申し上げたいと思います。ありがとうございます。

『日本語音声コミュニケーション』（英語名 *Japanese Speech Communication*）は、マルチメディアを駆使したオンラインジャーナルです。紙媒体の雑誌や本と違って、動画そのもの、音声そのものを掲載することができ、掲載されたものは世界じゅうで視聴されます。文字では書き表せないような、ちょっとした「日本的」な仕草でも、日本語を発音している被験者の口の中を撮ったMRI動画でも、日本語の教室の様子でも、世界に向けて発表することができます。

日本語の音声コミュニケーションとその教育に関する私たちの理解をさらに深め、研究を活性化していくために、本誌をご活用下さいましたら幸甚です。

2013年 3月吉日

「日本語音声コミュニケーション教育研究会」代表幹事  
定延利之

## 著者紹介

永野マドセン泰子（ながのまどせんやすこ）

スウェーデン・イエーテボリ大学文学部言語文学学科教授

主な研究テーマ：音声学、特に韻律。琉球方言。日本語教育。

主な著作：*Mora and Prosodic Coordination—A Phonetic Study of Japanese, Eskimo, and Yoruba*. (Lund University Press, 1992). 「東京と大阪の談話にみるあいづちの種類とその運用」『日本語科学』5:26-45（杉藤美代子との共著、国立国語研究所、1999）. Intonation in Ryukyuan with reference to modality, syntax, and focus. In *Language Documentation and Description*, vol10:178-207 (University of London, 2011). 「首里方言にみる法接尾辞と疑問文イントネーション」『琉球の方言』35:1-16（法政大学沖縄文化研究所、2011）. 「日本語における感情表現とイントネーション—男女差、および日本語学習者の母語背景の視点を加えて—」『音声文法』61-82（鮎澤孝子との共著、くろしお出版、2011）. Intonation in Okinawan. In *Handbook of the Ryukyuan Languages* (De Gruyter Mouton, to appear).

Yasuko Nagano-Madsen

Professor, Department of Languages and Literatures, University of Gothenburg, Sweden.

Areas of research: phonetics, prosody, Ryukyu dialect, Japanese as second language

Main publications: *Mora and Prosodic Coordination—A Phonetic Study of Japanese, Eskimo, and Yoruba*. (Lund University Press, 1992). Analysis of back channel items in Tokyo and Osaka Japanese (=in Japanese) In *Japanese Linguistics*, 5:26-45 (with Miyoko Sugito, NINJAL 1999). Mood suffix and question intonation in Shuri Japanese (=in Japanese). In *Ryukyuno Hougen*, 35:1-16 (Housei Daigaku Okinawa Bunka Kenkyusho, 2011). Emotion and intonation in Japanese—with focus on gender difference and L2 Japanese learners' background (in Japanese). In *Speech Grammar* 61-82 (with Takako Ayusawa, Kuroshio Shuppan, 2011). Intonation in Okinawan. In *Handbook of the Ryukyuan Languages* (De Gruyter Mouton, to appear).

金田純平（かねだじゅんぺい）

国立民族学博物館機関研究員

主な研究テーマ：言語コミュニケーション、言語および人文研究におけるメディア情報処理の応用

主要業績：『私たちの日本語』（共著，朝倉書店，2012），「要素に注目した役割語対照研究－「キャラ語尾」は通言語的なりうるか－」金水敏（編）『役割語研究の展開』pp.127-152（分担執筆，くろしお出版，2011），「文化研究への文化情報リテラシーの駆使の試み－淡路人形浄瑠璃における「伝承」を対象に－」岡田・定延（編）『可能性としての文化情報リテラシー』pp.71-90，（分担執筆，ひつじ書房，2010）

Jumpei KANEDA, Ph.D.

Research Fellow, National Museum of Ethnology, Japan

Main topics of research: language and communication, application of media processing to language studies and humanities

Main publications: *Watasshitachi no Nihongo* (Our own Japanese language), co-author, Asakura Shoten, 2012; "Contrastive Studies on Role Language focused on components: Can Kyara-particles be considered as interlinguistic feature?" In Kinsui (ed.) *Yakuwarigo Kenkyu no Tenkai* (Development of Role Language Studies), pp.127-152, Kuroshio Shuppan, 2011; "A Trial for Applying Modern Culture-Information Literacies to Humanities: To Special Reference on a "Tradition" of Awaji Puppet Theatre," *Kanosei to shite no Bunka-Jobo Literacy* (Modern Culture-Information Literacies in Potentia), Hituzi Shobo Publishing, 2010.

## 雑誌の案内（投稿の方法、連絡先）

『日本語音声コミュニケーション』（*Japanese Speech Communication*）は、日本語音声コミュニケーション教育研究会の会員であれば、どなたでも投稿できます。（但し、会員以外からの投稿も査読委員会の判断で認めることがあります。）

研究会の「入会案内」については、下記の web ページをご参照下さい。

<http://www.speech-data.jp/nihonsei/apply.html>

「投稿要領」と「査読委員会会則」については、下記の web ページをご参照下さい。

<http://www.speech-data.jp/nihonsei/seika.html>

「査読委員会名簿」については、下記の web ページをご参照下さい。

<http://www.speech-data.jp/nihonsei/summary.html>

その他のお問い合わせは、下記までお願い致します。

定延利之（さだのぶとしゆき）（代表幹事）

sadanobu[at]kobe-u.ac.jp（[at] の部分を @ に変えてご送信下さい。）

〒 657-8501 神戸市灘区鶴甲 1-2-1 神戸大学大学院国際文化学研究科

## 編集後記

待望の第2号が発行されました。2編の論文のうち1編が国内から、1編が遠くスウェーデンからです。投稿、ありがとうございます。

どちらの論文も音声満載、画像、映像満載で、このジャーナルの利点を遺憾なく利用してくださっています。

言語、音声、コミュニケーションのジャーナルは、世界中に数多くありますが、不思議なことに、音声、動画を掲載するものはこの『日本語音声コミュニケーション (Japanese Speech Communication)』だけです。みなさんがこのジャーナルを利用してくださいることを切に願ってやみません。

大役をおおせつかり、査読の先生方、取りまとめの方に迷惑をおかけしてばかりいます。投稿が増えれば、わが身の無能さがさらに露呈してしまいます。ですが、より多くの方が、このジャーナルを通して、世界に発信してくださることを祈っています。

馬場良二 (査読委員長)

日本語音声コミュニケーション 2

Japanese Speech Communication 2

## インタラクティブ PDF 版

発行 2014年3月28日 初版1刷

著者 日本語音声コミュニケーション教育研究会

<http://www.speech-data.jp/nihonsei/index.html>

発行・製作 株式会社 ひつじ書房

〒112-0011 東京都文京区千石 2-1-2 大和ビル 2F

Tel.03-5319-4916 Fax.03-5319-4917

郵便振替 00120-8-142852

[toiawase@hituzi.co.jp](mailto:toiawase@hituzi.co.jp) <http://www.hituzi.co.jp/>

ISSN 2187-6177